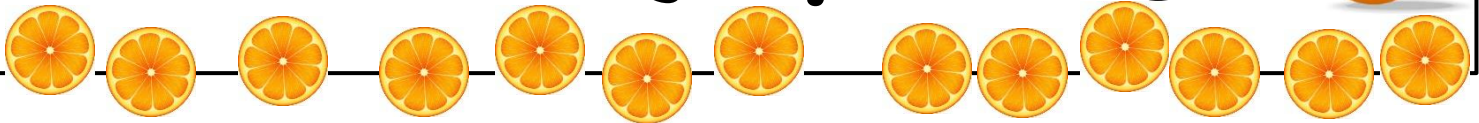


にこにこおれんじ



寒さが日ごとに増し、冬の訪れを感じます。空気の乾燥も始まり、インフルエンザなどの感染症にも注意して、楽しい年末年始を過ごしていきたいですね。



応援しています！ 年末拡大版インタビュー

山形県に暮らす方々の健康と生活の質の向上を、看護学という視点から積極的に取り組み、ご活躍されている、山形県立保健医療大学 看護学科教授 後藤 順子先生に、山形県で暮らす子どもたちの支援とこれからについて、おれんじ学園管理者の加勢がお話をお伺いしました。

加勢：まず先生のご専門の公衆衛生看護学について教えて頂ければと思います。

後藤：病院以外の普通の地域で生活している方を、看護でどのように関わっていったらいいかを学ぶ学問で、私は保健師教育を長くやってきました。保健師教育だけでなく、在宅看護等の分野も入り、30年以上やってきて各市町村に教え子がいるという状況です。

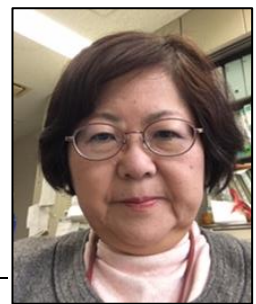
加勢：後藤先生が学校で教えていく中で大切にしていること、意識していることは何ですか。

後藤：私が大切にしていることは、地域ごとに違う暮らしを大切にしていきたいなと思っています。学生にも現場の保健師さんにも、その地域の特徴って何？ってよく聞いています。また、保健師一人、看護職一人だけでは何もできないので、色々なつながりも大切にしています。

加勢：私も山形に移り住んで半年が経ち、来る前は山形県という一つの場所として考えていましたが、それぞれの地域の特徴があるんだなあと感じています。一人では何もできないというのは私たち事業所も同じで、僕らができることは一歩一歩着実にいながら、同じ事業所や行政担当の皆さんとつながりながら、それぞれの専門性を活かして仕事をしていきたいと思っています。

加勢：先生のご経験の中で、地域に対する思いが芽生えてきたのはどういった経験からだったのでしょうか。

後藤：病院での勤務を経て保健所の保健師をしていました。その時はまだ3歳児健診も保健所で行っていて、たくさん子どもたちを見ていました。地域での活動、支援をその10年間で経験し、その後は教育現場にいます。卒業したての保健師さんのサポートや市町村のサポート等を行ってきた中で、現場の声を聞いて、地域で暮らす人たちのための看護教育に少しでも生かしたいなという思いが私の経験でもあります。また、併せて自分の孫の成長と一緒に、子どもの発育・発達の現場を教員としてではなく、普通の『ばば』として経験したいなとも思っています。お子さんのことでいうと、地域の中にはこだわりが強いお子さんもいます。見る人によっては、どこか相談に行った方がいいのではと言われることもあるだろうし、両親としてはショックだと思いますね。周りの人たちのちょっとこの子は・・・という感じに一喜一憂、いや一憂しているのかなって思います。私は集団の中でみんないい子じゃないといけなくていいのではなく、個性だからいいんじゃないかと思うところもありますが。



後藤順子 先生
山形県立保健医療大学
看護学科教授
公衆衛生看護学がご専門です。



加勢：事業所のベテラン保育士ともよく話になるのは、昔は普通にクラスに個性的な子はたくさんいたよね、と話になります。最近、個性に対してきめ細やかな支援ができるようになったとも言えて、今の時代の良さもありますが、個性の良さを、ルールと枠組みで決めてしまわないように気をつけたいと思っていますところ



後藤：発達について心配される子どもとの関わりの中で、特にお母さんが、これからどうするかなどを非常に悩んでいるときに、伴走者が必要だと思っています。

診断だけでなく、その気持ちを聞いてくれる人が必要かなと。それはだれでも良くて、悩んでいるお母さんたちの気持ちを聞いて、悩んでいるお母さんたちの伴走者になれるかどうかが大切だと感じています。もしかしたら、お母さんの気持ちが変わっただけでもお子さんの様子が変わるかもしれないし。たまたま先日そういうケースの話を聞きました。お母さんがすごく悩んで、受診するまで半年かかり、もっと早く相談できる場所に来ればよかったと言っていたそうです。

加勢：先生がお話してくださった伴走者というところは、とても大切だと思います。私たちでは、まず面談に来て下さったら僕らのところでアドバイスするのではなく、勇気をもって僕らのところに来てくれたお母さんたちの話を、まずは伺いたいと思っています。

後藤：そうなんです。その勇気ある一歩につながられるよう、多くの人に相談できる場所があることを知ってもらうことが大切で、継続して言い続けることが伴走者としての第一歩かなと思っています。



加勢：後藤先生がこれまで関わってきた子ども達との関わりで、印象に残っていることがあれば教えてください。

後藤：昔、3歳児健診で要チェックになった子が、冬にプールに飛び込んだり、筆筒の上からダイブしてしまう子で、なんで3歳児健診までできてしまったかな、という思いになったことがありました。それが、私が発達支援に関わることになったきっかけだったかな。そのお母さんによくお話を聞いたら、生まれたときから棒のような子で、物体のような感じだったんですっておっしゃられました。その後、自閉症と診断を受けました。お母さんから見れば、うちでは普通に育っているのに、なんでこの子が少し違うと言われるの？という気持ちになりますよね。保健師として色々支援を考えたくても、お母さんからそう言われたらこちらも返しようがない。そういった経験から、おれんじ学園が行っている



保育所等訪問支援事業あたりが大切なのかなと思います。今ほとんどの子どもが保育園・幼稚園に入るので、早い時期から子どもとお母さんの支援を考え、色々なところと連携を図ることは大切だなと思っています。

また最近でいうと、学生指導、実習指導をとおして障がい児、心身障がい児の方々と関わると、皆さんとても悩んでいる。そんな時、もう少し様々な環境が良くなることで、もう少し子ども達、お母さんたちが暮らしやすい生活を送れるじゃないかと思う時が多いですね。私としては、直接関われないけれど、講演の講師などを行うことで大勢の人に伝える、という役割があると思っています。ちょっと変だと言われたことが気になる気持ちはよく分かります。でもそこを、つながるきっかけとして捉え、ネガティブにとらえるのではなく、もう少し暮らしやすくするためにはどうしたらいいか、という視点から話ができたらいいなと思っています。



加勢：ぜひ先輩ママさんとして、子育て中の親御さんにアドバイスを頂けたらと思います。

後藤：子育てが終わって見て、後から考えると発育の一通過点のような気がする場面もあるけれど、もし支援が必要な何かがあれば関わってあげたいなと思いつつ過ごしています。もう一步、暮らしやすいと思える支援ができたらいなと思います。そして、ぜひお父さん、お母さんが心身共に健康であってほしいと思う。



お仕事も大切だけど、一緒にあそんで、一緒に笑い、一緒に食べて欲しい。

私も親業やり直したいと思いますね。(笑)

加勢：先生もそんな風に思われますか。(笑)



加勢：おれんじ学園に期待すること、アドバイスがあればお願いします。

後藤：発達支援のことなど、色々発信してもらいたいです。また、訪れる人たちの育児とか生活を、ぜひサポーターとして、伴走者として支えていていただきたい。子どもが育っていき自立していく中で、その子に合った支援を提供していただけたらと思っています。みんなが『にこにこ』になれるような施設づくりをしていてほしいと思っています。



***** 後藤先生、貴重なお話をありがとうございました。*****

研修会・講演会 開催報告



講演会を行いました！

9月1日(日)に、山形県立保健医療大学教授・佐竹 真次先生をお招きして、講演会「気になる子の療育・保育・教育・将来」を開催いたしました。当日は、60名以上のご参加をいただきました。長年のご活躍の中でのエピソードから、具体的内容の質問にも丁寧にお答えいただき、大変勉強になりました。

佐竹先生、ありがとうございました。



2019年度第2回研修会を行いました！



10月25日(金)に、「保育所等訪問支援事業とはなんだ?!」という題で、研修会を行いました。当日は、講師の先生がいらっしゃる大阪市の事業所から、生中継で行いました。

2019年度第3回研修会を行いました！

11月22日(金)に、「保育・教育現場で活かせる作業療法的アプローチ」と題して、作業療法的視点・アプローチとは何かということから、グループディスカッションも交えながら研修を行いました。保育・幼稚園現場の先生方、医療関係者の方々、療育支援関係の方々など、幅広い職種の方にお集まりいただき、活発なご意見をいただきました。

おれんじ学園かみのやま 利用状況お知らせ



12月第1週目時点の、利用時間の空き状況についてご連絡いたします。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	休み	保育所等訪問支援事業				空気が ありません	休み
14時		空きあり	空きあり	空きあり	空きあり		
15時		空きあり	空きあり	空きあり	空きあり		
16時		要相談	要相談	要相談	要相談		
17時		要相談	要相談	要相談	要相談		

土曜日は空き時間がない状況ですが、週によっては空きがある週もございますので、ご相談ください。

山形県に開設してから、半年がたちました。毎回、おれんじ学園を楽しみにしてくれるご利用者の皆さんの笑顔を見られることを、何よりも嬉しく思います。たくさんの方にお越しいただき、大変ありがとうございました。また、利用者様だけでなく、相談支援事業所の皆さん、同じ児童発達支援や放課後等デイサービスの仲間の皆さん、上山市をはじめとする近隣市町村の行政・福祉関係の事業所の皆さん、沢山の方に支えられ、12月を迎えることが出来ました。新参者の事業所にも関わらず、快く仲間に入れてくださり、沢山のことを教えてくださり、本当にありがたく思っております。

また、今年事業所内で企画した研修・講演会にも多くの方に足を運んでいただいたこと、感謝しております。先日、12月7日には今年のイベントの締めくくりとして、山響さんのコンサートも実施させていただきました。地域の皆さんに多く来場していただき、皆様と一緒に私どもも素敵な音楽に癒されました。



今年、沢山助けていただいた分、来年は少しでも地域の皆さんに貢献できるよう、一歩ずつ精進していければと考えております。来年も、子どもたちの成長を御家族の皆様と一緒に支えてまいります。様々な分野の研修・講演会も企画してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

管理者・児童発達支援管理者 加勢 泰庸

